

世界の景色から

パプアニューギニア



静かなほほ笑み

山奥のこの村に代々伝わる毛糸の手編み袋「ビルム」。ある時は赤ちゃんを、またある時は畑で取れたイモを運ぶなど、人々の暮らしにとっては欠かせない万能の道具である。

この日のビルムの中身は小石や砂利。大雨でできた道のくぼみを村人総出で補修中だ。暑い日差しが照りつけているが、誰にも「やらされ感」はない。カメラを向けると「イエー

イ」とポーズをとろうとする者もいて、みんな元気いっぱいだ。

そんな中、柔和な表情で歩く一人の女性に気が付いた。一般的にこの国の人々は陽気だと言われるが、実際には性格はさまざま。中には自己主張が苦手な人もいるが、村を良くしようという思いは同じ。彼女とほほ笑みを交わした時、「一緒にがんばりましょう」と無言の励ましを受けた気がした。

Photo by 福林 良典

1973年生まれ。建設会社などで働いた後、京都大学大学院博士課程に在籍中の2007年に(特活)道普請人の設立に関わる。以来、同団体の理事として活動。写真は、地球最後の秘境とも言われるパプアニューギニアのサザンハイランド州トルム村で13年8月に撮影

投稿をお待ちしています ▶ mail@idj.co.jp